

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニッポンタイイクダイガク 学校法人 日本体育大学								
フリガナ大学の名称	ニッポンタイイクダイガクダイガクイン 日本体育大学大学院 (Graduate School of Nippon Sport Science University)								
大学本部の位置	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号								
大学の目的	日本体育大学大学院は、体育及びスポーツ並びに教科教育に関する高度の学術研究により、その深奥をきわめ、学術の応用に貢献して競技力向上及び教科教育の実践に関する研究を推進するとともに、高度な学識と研究能力を持った専門家の養成と、社会の多様な分野で活躍し得る人間の育成を目標とし、スポーツ文化の進展及び新たな教科教育学の構築と人類の友好・親善に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>博士前期課程の目的</p> <p>博士前期課程は、小学校教員養成を基盤とし、教科の共通性を基底にした各教科の固有性を保持する、という新しい見地からの実践教科教育者（カリキュラムプラクティスト）の育成を目指す。</p> <p>博士後期課程の目的</p> <p>博士後期課程は、世界的視野で各教科における教育課程に関する理論と具体的な学習指導とを往還させ、教育課程をもとにした学習指導レベルでの実践的検証力を有する研究者（カリキュラムスペシャリスト）の育成を目指す。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 児童スポーツ教育学部  14条特例の実施
	教育学研究科 [Graduate School of Education]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
	実践教科教育学専攻 (博士前期課程) [Master's Program in Practical Subject Pedagogy]	2	20	—	40	修士 (教育学)	平成29年4月 (1年次)		
	実践教科教育学専攻 (博士後期課程) [Doctoral Program in Practical Subject Pedagogy]	3	5	—	15	博士 (教育学)	平成29年4月 (1年次)		
計		25	—	55					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年4月収容定員の変更予定（平成28年3月認可申請予定）</li> <li>・学科の廃止 体育学部武道学科（廃止）（△120） ※平成29年4月 募集停止</li> <li>・学部の設置 スポーツ文化学部 武道教育学科〔新設〕（100）（平成28年4月届出予定） スポーツ国際学科〔新設〕（100）（平成28年4月届出予定）</li> </ul>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	教育学研究科 実践教科教育学専攻 (博士前期課程)	10科目	20科目	0科目	30科目	30単位			
教育学研究科 実践教科教育学専攻 (博士後期課程)	5科目	15科目	0科目	20科目	10単位				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	教育学研究科 実践教科教育学専攻(博士前期課程)		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
	教育学研究科 実践教科教育学専攻(博士後期課程)		9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
既設分	計		21 (21)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	0 (0)
	体育科学研究科 体育科学専攻(博士前期課程)		51 (51)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	62 (62)	0 (0)	0 (0)
計	体育科学研究科 体育科学専攻(博士後期課程)		26 (26)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	0 (0)
	計		77 (77)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	90 (90)	0 (0)	0 (0)
合計		96 (96)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	112 (112)	0 (0)	0 (0)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		96 (96)		30 (30)		126 (126)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		8 (8)		0 (0)		8 (8)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		104 (104)		30 (30)		134 (134)		
校地等	区分		専用		共用		共用する他の学校等の専用		
	校舎敷地		128,229.52㎡		0㎡		0㎡		
	運動場用地		81,228.24㎡		0㎡		0㎡		
	小計		209,457.76㎡		0㎡		0㎡		
	その他		56,867.13㎡		0㎡		0㎡		
	合計		266,324.89㎡		0㎡		0㎡		
校舎	専用		共用		共用する他の学校等の専用		計		
	62,587.26㎡ (62,587.26㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		62,587.26㎡ (62,587.26㎡)		
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		
	59室		40室		60室		4室 (補助職員 1人)		
専任教員研究室	新設学部等の名称				室数				
	教育学研究科 実践教科教育学専攻(博士前期課程)				13室				
	教育学研究科 実践教科教育学専攻(博士後期課程)				10室				
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		
	教育学研究科		44,110 [4,090] (41,510 [3,570])		(683 [135]) (683 [135])		(21 [21]) (21 [21])		
	計		44,110 [4,090] (41,510 [3,570])		(683 [135]) (683 [135])		(21 [21]) (21 [21])		
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数				
	3,128㎡		640席		562,000冊		大学全体		
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	42,796.15㎡		野球場、サッカー場、ラグビー場、陸上競技場、温水プール						

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体 図書購入費には電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト含む。）を含む。設備購入費は予算額を計上。
	教員1人当り研究費等		750千円	750千円	750千円	—	—	—	
	共同研究費等		5,700千円	5,700千円	5,700千円	—	—	—	
	図書購入費	2,900千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—	—	
	設備購入費	8,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	—	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,110千円	810千円	810千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金							
既設大学等の状況	大学の名称	日本体育大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	体育学部	年	人	年次人	人		倍		
	体育学科	4	1260	—	4440	1.17	昭和24年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1	
	健康学科	4	750	—	2610	1.17	昭和37年度		
	武道学科	4	195	—	675	1.16	昭和40年度		
	社会体育学科	4	120	—	480	1.21	昭和50年度		
	児童スポーツ教育学部	4	195	—	675	1.16	平成25年度		
	児童スポーツ教育学科	4	200	—	800	1.03	平成25年度		
	児童スポーツ教育コース	4	200	—	800	1.03	平成25年度		
	幼児教育保育コース	4	150	—	600	1.03	平成25年度		
	保健医療学部	4	50	—	200	1.02	平成26年度		
	整復医療学科	4	170	—	510	1.08	平成26年度		
救急医療学科	4	90	—	270	1.10	平成26年度			
救急医療学科	4	80	—	240	1.07	平成26年度			
既設大学等の状況	大学の名称	日本体育大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	体育科学研究科	年	人	年次人	人		倍		
体育科学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	修士(体育科学)	1.60	昭和60年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
体育科学専攻(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(体育科学)	1.77	平成9年度		
附属施設の概要	名称：体育研究所 目的：体育・スポーツに関する研究 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：昭和37年4月 規模等：242.37㎡（東京・世田谷キャンパス 教育研究棟G階）								
	名称：スポーツ・トレーニングセンター 目的：学生の体力向上及びトップアスリートの競技力向上 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：昭和39年2月 規模等：990.56㎡（東京・世田谷キャンパス スポーツ棟1階） 1,874.24㎡（横浜・健志台キャンパス 百年記念館1階）								
	名称：オリンピックスポーツ文化研究所 目的：オリンピックの研究を通じて広く世界の福祉に貢献し本邦のスポーツ文化を牽引 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：体育研究所と共用（東京・世田谷キャンパス 教育研究棟G階）								

別記様式第2号(その1の1)補足資料

学校法人日本体育大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本体育大学					日本体育大学				
体育学部					体育学部				
体育学科	750	—	3000	→	体育学科	750	—	3000	
健康学科	195	—	780		健康学科	195	—	780	
武道学科	120	—	480		武道学科	<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成29年4月学生募集停止
社会体育学科	195	—	780		社会体育学科	195	—	780	
					スポーツ文化学部				学部の設置(届出)
					武道教育学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>	
					スポーツ国際学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>	
児童スポーツ教育学部					児童スポーツ教育学部				
児童スポーツ教育学科					児童スポーツ教育学科				
児童スポーツ教育コース	150	—	600		児童スポーツ教育コース	150	—	600	
幼児教育保育コース	50	—	200		幼児教育保育コース	50	—	200	
保健医療学部					保健医療学部				
整復医療学科	90	—	360		整復医療学科	90	—	360	
救急医療学科	80	—	320		救急医療学科	80	—	320	
計	1630		6520		計	1710		6840	
日本体育大学大学院					日本体育大学大学院				
体育科学研究科 博士前期課程 (M)				→	体育科学研究科 博士前期課程 (M)				
	25	—	50			25	—	50	
博士後期課程 (D)					博士後期課程 (D)				
	6	—	18			6	—	18	
					教育学研究科 博士前期課程 (M)	<u>20</u>	—	<u>40</u>	研究科の設置(認可申請)
					博士後期課程 (D)	<u>5</u>	—	<u>15</u>	研究科の設置(認可申請)
計	31		68		計	<u>56</u>		<u>123</u>	

教 育 課 程 等 の 概 要

（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教科基盤科目	教科教育特論	1前	2			○			6	1					オムニバス	
	教科教育研究法	1前	2			○			5						オムニバス	
	教科目標論	1前	2			○			7	1					オムニバス	
	科学学習指導論	1後	2			○			7	1					オムニバス	
	教科評価論	1後	2			○			7	1					オムニバス	
小計（5科目）		—	10						12	1						
教科共通科目	国語科実践研究	1前	2			○			1							
	社会科実践研究	1前	2			○			1							
	算数科実践研究	1後	2			○			1							
	理科実践研究	1後	2			○			1							
	体育科実践研究	1後	2			○			1							
小計（5科目）		—	10						5							
教科選択科目	国語	国語科特別研究Ⅰ	2前		2			○		2						共同 共同
		国語科特別研究Ⅱ	2後		2			○		2						
		国語科学習内容構成セミナー	2前		2			○		2						
		国語科教材開発セミナー	2後		2			○		2						
	社会	社会科特別研究Ⅰ	2前		2				○		2					共同 共同
		社会科特別研究Ⅱ	2後		2				○		2					
		社会科学習内容構成セミナー	2前		2				○		2					
		社会科教材開発セミナー	2後		2				○		2					
	算数	算数科特別研究Ⅰ	2前		2				○		2					共同 共同
		算数科特別研究Ⅱ	2後		2				○		2					
		算数科学習内容構成セミナー	2前		2				○		2					
		算数科教材開発セミナー	2後		2				○		2					
	理科	理科特別研究Ⅰ	2前		2				○		1	1				共同 共同
		理科特別研究Ⅱ	2後		2				○		1	1				
		理科学習内容構成セミナー	2前		2				○		1	1				
		理科教材開発セミナー	2後		2				○		1	1				
	体育	体育科特別研究Ⅰ	2前		2				○		4					共同 共同
		体育科特別研究Ⅱ	2後		2				○		4					
		体育科学習内容構成セミナー	2前		2				○		1					
		体育科教材開発セミナー	2後		2				○		1					
小計（20科目）		—		40					11	1						
合計（30科目）		—	20	40					12	1						
学位又は称号		修士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								
修了要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目である教科基盤科目の10単位及び教科共通科目の10単位、教科選択科目の中から、主たる自己の専門教科で8単位、その他の教科で「○○学習内容構成セミナー」または「○○教材開発セミナー」のいずれかから2単位以上を修得し、30単位以上修得すること。かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要														
(教育学研究科 実践教科教育学専攻) 博士後期課程														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通分野	カリキュラム開発講究 (国語教育学)	1前		2		○			1					オムニバス
	カリキュラム開発講究 (社会科教育学)	1前		2		○		1						
	カリキュラム開発講究 (数学教育学)	1前		2		○		1						
	カリキュラム開発講究 (理科教育学)	1前		2		○		1	1					
	カリキュラム開発講究 (体育科教育学)	1前		2		○		2						
	小計 (5科目)	—		10		—		5	1					
専修分野	国語	カリキュラム開発特別研究Ⅰ (国語教育学)	1後	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ (国語教育学)	2前	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ (国語教育学)	3前	2			○		1					
	社会	カリキュラム開発特別研究Ⅰ (社会科教育学)	1後	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ (社会科教育学)	2前	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ (社会科教育学)	3前	2			○		1					
	数学	カリキュラム開発特別研究Ⅰ (数学教育学)	1後	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ (数学教育学)	2前	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ (数学教育学)	3前	2			○		1					
	理科	カリキュラム開発特別研究Ⅰ (理科教育学)	1後	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ (理科教育学)	2前	2			○		1					
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ (理科教育学)	3前	2			○		1					
	体育	カリキュラム開発特別研究Ⅰ (体育科教育学)	1後	2			○		2					
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ (体育科教育学)	2前	2			○		2					
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ (体育科教育学)	3前	2			○		2					
小計 (15科目)	—		30		—		6							
合計 (20科目)		—		40		—		9	1					
学位又は称号	博士 (教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
修了要件及び履修方法							授業期間等							
共通分野から、主となる自己の専門教科の科目2単位を含む4単位以上を修得し、専修分野から主たる専門教科の「カリキュラム開発特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」6単位を修得し、10単位以上修得すること。かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 基盤 科目	教科教育特論	<p>（目標・概要） 教科指導や特別活動等から編成する教育課程の成立条件、（目的、目標、内容、方法、評価など）をもとに、教科の成立基盤や各教科の本質を理解できるようにするとともに、教科の本質にもとづく人間性を育成できる学習指導を構想し展開できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （1 角屋重樹/5回） 教育課程とはどのようなものであるか、また、教育課程と教科との関係について解説する。教育課程の成立などを踏まえ、各教科の成立基盤について、教育基本法や学校教育法などの法的レベルと研究レベルの両側面から解説する。 各教科はどのように区分されるかという課題とその追究方法について解説する。 各教科の特質を活かした授業構成のしかたについて解説する。 （2 府川源一郎/2回） 学校教育法や小学校学習指導要領をもとに国語科の本質について解説する。国語科における人間形成について解説する。 （6 池野範男/2回） 学校教育法や小学校学習指導要領をもとに社会科の本質について解説する。社会科における人間形成について解説する。 （3 金本良通/2回） 学校教育法や小学校学習指導要領をもとに算数科の本質について解説する。算数科における人間形成について解説する。 （13 稲田結美/2回） 学校教育法や小学校学習指導要領をもとに理科の本質について解説する。理科における人間形成について解説する。 （11 白旗和也/1回） 学校教育法や小学校学習指導要領をもとに体育科の本質について解説する。 （9 岡出美則/1回） 体育科における人間形成について解説する。</p>	オムニバス
	教科教育研究法	<p>（目標・概要） データの収集と分析方法及び研究倫理などについて解説し、調査方法やデータの分析方法を理解し、適用できるようにするとともに、研究倫理について厳守できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （6 池野範男/4回） 調査の方法について解説する。調査方法のうち、質問紙方法（質的調査）について解説する。また、データの信頼性について解説する。研究倫理について解説する。 （12 近藤智靖/2回） 質問紙方法（量的調査）について解説する。また、質問紙調査における項目分析などについて解説する。 （1 角屋重樹/4回） 質問紙項目の妥当性について解説する。主成分分析について解説する。因子分析について解説する。林の数量化理論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳについて解説する。 （3 金本良通/2回） 検定や有意水準（危険率）等について解説する。T検定やF検定、正規分布検定、分散分析などについて解説する。 （8 今関豊一/3回） 相関分析法について解説する。回帰分析や重回帰分析について解説する。共分散構造分析について解説する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 基盤 科目	教科目標論	<p>（目標・概要） 中央教育審議会の答申をもとに、近未来において各教科が目指す人間像やこれからの社会で必要とされる、知識・技能、能力、態度などやそれらを学習指導計画で具現化するための方法について解説していく、自らそれらを学習指導過程で具現化できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （10奥泉香/3回） 国語科が目指す言葉の使用者としての人間像を明確にする方法について解説する。国語科に関するこれからの社会で必要とされる知識・技能、能力、態度について解説する。明確にした国語科における知識・技能、能力、態度を学習指導計画で具現化する方法について解説する。</p> <p>（7猪瀬武則/3回） 社会科が目指す人間像を明確にする方法について解説する。社会科でこれからの社会で必要とされる知識・技能、能力、態度を解説する。明確にした社会科の知識・技能、能力、態度を学習指導計画で具現化する方法について解説する。</p> <p>（5島田功/3回） 算数科が目指す人間像を明確にする方法について解説する。算数科でこれからの社会で必要とされる知識・技能、能力、態度を解説する。明確にした算数科の知識・技能、能力、態度を学習指導計画で具現化する方法について解説する。</p> <p>（1角屋重樹/1回） 理科が目指す人間像を明確にする方法について解説する。</p> <p>（13稲田結美/2回） 理科でこれからの社会で必要とされる知識・技能、能力、態度を解説する。明確にした理科の知識・技能、能力、態度を学習指導計画で具現化する方法について解説する。</p> <p>（11白旗和也/1回） 体育科が目指す人間像を明確にする方法について解説する。</p> <p>（8今関豊一/1回） 体育科でこれからの社会で必要とされる知識・技能、能力、態度を明確にする方法について解説する。</p> <p>（9岡出美則/1回） 明確にした体育科の知識・技能、能力、態度を学習指導計画で具現化する方法について解説する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 基盤 科目	教科学習指導論	<p>（目標・概要） 各教科において単元レベルでの確かつ適切な学習指導過程を収集、分析、改善して新たな学習指導過程を構想、検証する方法を講義し、自ら実践できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （10 奥泉香/3回） 国語科で行われている代表的な学習指導方法について収集する。国語科の代表的な学習指導方法を、教授者あるいは学習者中心、目標設定や学習者のとらえ方、指導展開、評価の方法などの視点から学習指導の特徴を分析する。国語科において単元レベルで立案した学習指導過程を構想、展開し検証する方法について解説する。</p> <p>（7 猪瀬武則/3回） 社会科で行われている代表的な学習指導方法について収集する。社会科の代表的な学習指導方法を、教授者あるいは学習者中心、目標設定や学習者のとらえ方、指導展開、評価の方法などの視点から学習指導の特徴を分析する。社会科において単元レベルで立案した学習指導過程を構想、展開し検証する方法について解説する。</p> <p>（5 島田功/3回） 算数科で行われている代表的な学習指導方法について収集する。算数科の代表的な学習指導方法を、教授者あるいは学習者中心、目標設定や学習者のとらえ方、指導展開、評価の方法などの視点から学習指導の特徴を分析する。算数科において単元レベルで立案した学習指導過程を構想、展開し検証する方法について解説する。</p> <p>（1 角屋重樹/1回） 理科の代表的な学習指導方法について収集する。 （13 稲田結美/2回） 理科の代表的な学習指導方法を、教授者あるいは学習者中心、目標設定や学習者のとらえ方、指導展開、評価の方法などの視点から学習指導の特徴を分析する。理科において単元レベルで立案した学習指導過程を構想、展開し検証する方法について解説する。</p> <p>（11 白旗和也/1回） 体育科の代表的な学習指導方法について収集する。</p> <p>（9 岡出美則/1回） 体育科の代表的な学習指導方法を、教授者あるいは学習者中心、目標設定や学習者のとらえ方、指導展開、評価の方法などの視点から学習指導の特徴を分析する。</p> <p>（8 今関豊一/1回） 体育科において単元レベルで立案した学習指導過程を構想、展開し検証する方法について解説する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 基盤 科目	教科評価論	<p>（目標・概要）各教科で行われている種々の評価方法について収集、分析し、各教科において評価の目的や方法を構想し、構想した計画を授業実践で検証できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （10 奥泉香/3回）</p> <p>国語科で実践されている代表的な評価方法を収集する。実施されている国語科の評価法の工夫を分析する。国語科において新しく構想した評価方法について授業実践で検証する。</p> <p>（7 猪瀬武則/3回）</p> <p>社会科で実践されている代表的な評価方法を収集する。実施されている社会科の評価法の工夫を分析する。社会科において新しく構想した評価方法について授業実践で検証する。</p> <p>（5 島田功/3回）</p> <p>算数科で実践されている代表的な評価方法を収集する。実施されている算数科の評価法の工夫を分析する。算数科において新しく構想した評価方法について授業実践で検証する。</p> <p>（1 角屋重樹/1回）</p> <p>理科で実践されている代表的な評価方法を収集する。</p> <p>（13 稲田結美/2回）</p> <p>理科で実践されている代表的な評価方法を収集する。実施されている理科の評価法の工夫を分析する。理科において新しく構想した評価方法について授業実践で検証する。</p> <p>（8 今関豊一/1回）</p> <p>体育科で実践されている代表的な評価方法を収集する。</p> <p>（12 近藤智靖/1回）</p> <p>実施されている体育科の評価法の工夫を分析する。</p> <p>（11 白旗和也/1回）</p> <p>体育科において新しく構想した評価方法について授業実践で検証する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 共通 科目	国語科実践研究	<p>（目標・概要） 国語科の授業実践に関して、その実践結果から課題を見だし、その課題を解決し、繰り返し授業改善を行うことができるようにする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業を実施後、児童の姿から授業目標に至らなかった要因を分析、抽出する方法について解説する。</li> <li>② 授業を実施後、児童の姿から、授業のねらいについてその妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>③ 授業を実施後、児童の姿から、児童の実態のとらえ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>④ 授業を実施後、指導過程の構成方法の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑤ 授業を実施後、教師の働きかけ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑥ 授業を実施後、教材の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> </ol>	
教科 共通 科目	社会科実践研究	<p>（目標・概要） 社会科の授業実践に関して、その実践結果から課題を見だし、その課題を解決し、繰り返し授業改善を行うことができるようにする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業を実施後、児童の姿から授業目標に至らなかった要因を分析、抽出する方法について解説する。</li> <li>② 授業を実施後、児童の姿から、授業のねらいについてその妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>③ 授業を実施後、児童の姿から、児童の実態のとらえ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>④ 授業を実施後、指導過程の構成方法の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑤ 授業を実施後、教師の働きかけ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑥ 授業を実施後、教材の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> </ol>	
教科 共通 科目	算数科実践研究	<p>（目標・概要） 算数科の授業実践に関して、その実践結果から課題を見だし、その課題を解決し、繰り返し授業改善を行うことができるようにする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業を実施後、児童の姿から授業目標に至らなかった要因を分析、抽出する方法について解説する。</li> <li>② 授業を実施後、児童の姿から、授業のねらいについてその妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>③ 授業を実施後、児童の姿から、児童の実態のとらえ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>④ 授業を実施後、指導過程の構成方法の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑤ 授業を実施後、教師の働きかけ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑥ 授業を実施後、教材の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> </ol>	

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 共通 科目	理科実践研究	<p>（目標・概要）理科の授業実践に関して、その実践結果から課題を見だし、その課題を解決し、繰り返し、授業改善を行うことができるようにする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業を実施後、児童の姿から授業目標に至らなかった要因を分析、抽出する方法について解説する。</li> <li>② 授業を実施後、児童の姿から、授業のねらいについてその妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>③ 授業を実施後、児童の姿から、児童の実態のとらえ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>④ 授業を実施後、指導過程の構成方法の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑤ 授業を実施後、教師の働きかけ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑥ 授業を実施後、教材の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> </ol>	
教科 共通 科目	体育科実践研究	<p>（目標・概要）体育科の授業実践に関して、その実践結果から課題を見だし、その課題を解決し、繰り返し、授業改善を行うことができるようにする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業を実施後、児童の姿から授業目標に至らなかった要因を分析、抽出する方法について解説する。</li> <li>② 授業を実施後、児童の姿から、授業のねらいについてその妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>③ 授業を実施後、児童の姿から、児童の実態のとらえ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>④ 授業を実施後、指導過程の構成方法の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑤ 授業を実施後、教師の働きかけ方の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> <li>⑥ 授業を実施後、教材の妥当性を吟味する方法について解説する。</li> </ol>	

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 選択 科目	国語科特別研究Ⅰ	<p>（目標・概要） 国内の学会誌をもとに問題発見や調査計画の方法を解説し、これらの手法をつかって修士論文を作成できることを目標として、研究指導を行なう。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。 ② 収集した研究論文を整理する。 ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。 ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。 ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（2 府川源一郎）上記方法等を用いて、初等国語教育実践や国語教育史にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（10 奥泉 香）上記方法等を用いて、特に言語教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	
	国語科特別研究Ⅱ	<p>（目標・概要） 海外の学会誌をもとに、問題発見や調査計画の方法を解説し、研究指導を行ない、院生がこれらの手法で修士論文を作成できることを目標とする。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。 ② 収集した研究論文を整理する。 ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。 ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。 ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（2 府川源一郎）上記方法等を用いて、初等国語教育実践や国語教育史にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（10 奥泉 香）上記方法等を用いて、特に言語教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	
	国語科学習内容構成セミナー	<p>（目標・概要） 小学校国語科の各領域における実践事例について学年内や学年間及び小中学校間の連続性や子どもの認識などの視点から、事例に潜在する学習内容の構成原理を顕在化し、それらをもとに新しい内容を構想、実践し、検証できるようにする。小学校の各教科の領域における実践事例に潜在する内容構成原理を明らかにし、その構成原理をもとに、新しい実践事例を立案、検証する方法を解説する。</p>	共同
	国語科教材開発セミナー	<p>（目標・概要） 小学校国語科の各領域の実践事例から教材の工夫を顕在化し、新しい教材を開発できるようにするとともに、開発した新しい教材を実践で検証できるようにする。それぞれの領域における代表的な実践事例における教材の工夫について、学年内や学年間及び小中学校間の学習内容の連続性や教材の教育的価値などの視点から、教材開発の工夫のしかたを明らかにし、それらをもとに教材を開発、検証する方法について解説する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 実践教科教育学専攻) 博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科選択科目	社会科特別研究Ⅰ	<p>（目標・概要） 国内の学会誌をもとに問題発見や調査計画の方法を解説し、これらの手法をつかって修士論文を作成できることを目標として、研究指導を行なう。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。                      ② 収集した研究論文を整理する。                      ③ 整理した研究論文において、未開拓の領域を見いだす。                      ④ 見いだした未開拓の領域を補完する方法を考案する。                      ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（6 池野範男） 上記方法等を用いて、社会科教育、特に地歴分野にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（7 猪瀬武則） 上記方法等を用いて、社会科教育、特に公民分野にかかわる各種課題について研究指導を行なう。</p>	
	社会科特別研究Ⅱ	<p>（目標・概要） 海外の学会誌をもとに、問題発見や調査計画の方法を解説し、研究指導を行ない、院生がこれらの手法で修士論文を作成できることを目標とする。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。                      ② 収集した研究論文を整理する。                      ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。                      ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。                      ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（6 池野範男） 上記方法等を用いて、社会科教育、特に、地歴分野にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（7 猪瀬武則） 上記方法等を用いて、社会科教育、特に、公民分野にかかわる各種課題について研究指導を行なう。</p>	
	社会科学習内容構成セミナー	<p>（目標・概要） 小学校社会科の各領域における実践事例について学年内や学年間及び小中学校間の連続性や子どもの認識などの視点から、事例に潜在する学習内容の構成原理を顕在化し、それらをもとに新しい内容を構想、実践し、検証できるようにする。小学校の各教科の領域における実践事例に潜在する内容構成原理を明らかにし、その構成原理をもとに、新しい実践事例を立案、検証する方法を解説する。</p>	共同
	社会科教材開発セミナー	<p>（目標・概要） 小学校社会科の各領域の実践事例から教材の工夫を顕在化し、新しい教材を開発できるようにするとともに、開発した新しい教材を実践で検証できるようにする。それぞれの領域における代表的な実践事例における教材の工夫について、学年内や学年間及び小中学校間の学習内容の連続性や教材の教育的価値などの視点から、教材開発の工夫のしかたを明らかにし、それらをもとに教材を開発、検証する方法について解説する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科 実践教科教育学専攻) 博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科選択科目	算数科特別研究Ⅰ	<p>（目標・概要） 国内の学会誌をもとに問題発見や調査計画の方法を解説し、これらの手法をつかって修士論文を作成できることを目標として、研究指導を行なう。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。                      ② 収集した研究論文を整理する。                      ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。                      ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。                      ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（3 金本良通）上記方法等を用いて、算数教育、カリキュラム・教材開発にかかわる課題、特に、コミュニケーション分野について研究指導を行なう。</p> <p>（5 島田 功）上記方法等を用いて、算数教育、学力調査、カリキュラム開発に係わる課題、特に、価値分野について研究指導を行なう。</p>	
	算数科特別研究Ⅱ	<p>（目標・概要） 海外の学会誌をもとに、問題発見や調査計画の方法を解説し、研究指導を行ない、院生がこれらの手法で修士論文を作成できることを目標とする。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。                      ② 収集した研究論文を整理する。                      ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。                      ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。                      ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（3 金本良通）上記方法等を用いて、算数教育、カリキュラム・教材開発にかかわる課題、特にコミュニケーション分野について研究指導を行なう。</p> <p>（5 島田 功）上記方法等を用いて、算数教育、学力調査、カリキュラム開発にかかわる課題、特に、価値分野について研究指導を行なう。</p>	
	算数科学習内容構成セミナー	<p>（目標・概要） 小学校算数科の各領域における実践事例について学年内や学年間及び小中学校間の連続性や子どもの認識などの視点から、事例に潜在する学習内容の構成原理を顕在化し、それらをもとに新しい内容を構想、実践し、検証できるようにする。小学校の算数科の領域における実践事例に潜在する内容構成原理を明らかにし、その構成原理をもとに、新しい実践事例を立案、検証する方法を解説する。</p>	共同
	算数科教材開発セミナー	<p>（目標・概要） 小学校算数科の各領域の実践事例から教材の工夫を顕在化し、新しい教材を開発できるようにするとともに、開発した新しい教材を実践で検証できるようにする。各教科のそれぞれの領域における代表的な実践事例の教材の工夫について学年内や学年間及び小中学校間の学習内容の連続性や教材の教育的価値などの視点から、教材開発の工夫の仕方を明らかにし、それらをもとに教材を開発、検証する方法について解説する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科 選択 科目	理科特別研究Ⅰ	<p>（目標・概要） 国内の学会誌をもとに問題発見や調査計画の方法を解説し、これらの手法をつかって修士論文を作成できることを目標として、研究指導を行なう。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。 ② 収集した研究論文を整理する。 ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。 ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。 ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（1 角屋重樹）上記方法等を用いて、理科教育にかかわる課題について、特に、方法学の見地から研究指導を行なう。</p> <p>（13 稲田結美）上記方法等を用いて、理科教育にかかわる課題について、特に、ジェンダーの見地から研究指導を行なう。</p>	
	理科特別研究Ⅱ	<p>（目標・概要） 海外の学会誌をもとに、問題発見や調査計画の方法を解説し、研究指導を行ない、院生がこれらの手法で修士論文を作成できることを目標とする。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。 ② 収集した研究論文を整理する。 ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。 ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。 ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（1 角屋重樹）上記方法等を用いて、理科教育にかかわる課題について、特に方法学の見地から研究指導を行なう。</p> <p>（13 稲田結美）上記方法等を用いて、理科教育にかかわる課題について、特に、ジェンダーの見地から研究指導を行なう。</p>	
	理科学習内容構成セミナー	<p>（目標・概要） 小学校理科における実践事例について学年内や学年間及び小中学校間の連続性や子どもの認識などの視点から、事例に潜在する学習内容の構成原理を顕在化し、それらをもとに新しい内容を構想、実践し、検証できるようにする。 小学校の理科の各領域の実践事例に潜在する内容構成原理を明らかにし、その構成原理をもとに、新しい実践事例を立案、検証する方法を解説する。</p>	共同
	理科教材開発セミナー	<p>（目標・概要） 小学校理科の各領域の実践事例から教材の工夫を顕在化し、新しい教材を開発できるようにするとともに、開発した新しい教材を実践で検証できるようにする。各教科のそれぞれの領域における代表的な実践事例の教材の工夫について学年内や学年間及び小中学校間の学習内容の連続性や教材の教育的価値などの視点から、教材開発の工夫の仕方を明らかにし、それらをもとに教材を開発、検証する方法について解説する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士前期課程			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科選択科目	体育科特別研究Ⅰ	<p>（目標・概要） 国内の学会誌をもとに問題発見や調査計画の方法を解説し、これらの手法をつかって修士論文を作成できることを目標として、研究指導を行なう。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。            ② 収集した研究論文を整理する。            ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。            ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。            ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（4 久保 健）上記方法等を用いて、体育科教育、運動文化、教材開発にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（8 今関豊一）上記方法等を用いて、体育科教育、保健科教育にかかわる課題、特に、保健領域について研究指導を行なう。</p> <p>（9 岡出美則）上記方法等を用いて、体育科教育、カリキュラム、教師教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（12 近藤智靖）上記方法等を用いて、体育科教育、教師教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	
	体育科特別研究Ⅱ	<p>（目標・概要） 海外の学会誌をもとに、問題発見や調査計画の方法を解説し、研究指導を行ない、院生がこれらの手法で修士論文を作成できることを目標とする。</p> <p>① 教科の実践に関する研究論文を収集する。            ② 収集した研究論文を整理する。            ③ 整理した研究論文において、未領域を見いだす。            ④ 見いだした未領域を補完する方法を考案する。            ⑤ 考案した方法について検証する。</p> <p>（4 久保 健）上記方法等を用いて、体育科教育、運動文化、教材開発にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（8 今関豊一）上記方法等を用いて、体育科教育、保健科教育にかかわる課題、特に、保健領域について研究指導を行なう。</p> <p>（9 岡出美則）上記方法等を用いて、体育科教育、教師教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p> <p>（12 近藤智靖）上記方法等を用いて、体育科教育、教師教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	
	体育科学習内容構成セミナー	<p>（目標・概要） 小学校体育科における実践事例について学年内や学年間及び小中学校間の連続性や子どもの認識などの視点から、事例に潜在する学習内容の構成原理を顕在化し、それらをもとに新しい内容を構想、実践し、検証できるようにする。体育科の各領域の実践事例に潜在する内容構成原理を明らかにし、その構成原理をもとに、新しい実践事例を立案、検証する方法を解説する。</p>	
	体育科教材開発セミナー	<p>（目標・概要） 小学校体育科の各領域の実践事例から教材の工夫を顕在化し、新しい教材を開発できるようにするとともに、開発した新しい教材を実践で検証できるようにする。各教科のそれぞれの領域における代表的な実践事例の教材の工夫について学年内や学年間及び小中学校間の学習内容の連続性や教材の教育的価値などの視点から、教材開発の工夫の仕方を明らかにし、それらをもとに教材を開発、検証する方法について解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 実践教科教育学専攻）博士後期課程			
分野 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 分野	カリキュラム開発講究（国語教育学）	（目標・概要） 国語科教育の分野において、国内外の学会誌の典型的な学術論文をもとに、論文の引用や参考の仕方、論文の構成方法、特にテーマ設定や解決方法、考察、結論の導出などについて解説するとともに、未開拓の領域を見出し、その手法を実践しながら学術論文の作成方法を修得させる。	
	カリキュラム開発講究（社会科教育学）	（目標・概要） 社会科教育の分野において、国内外の学会誌の典型的な学術論文をもとに、論文の引用や参考の仕方、論文の構成方法、特にテーマ設定や解決方法、考察、結論の導出などについて解説するとともに、未開拓の領域を見出し、その手法を実践しながら学術論文の作成方法を修得させる。	
	カリキュラム開発講究（数学教育学）	（目標・概要） 数学教育の分野において、国内外の学会誌の典型的な学術論文をもとに、論文の引用や参考の仕方、論文の構成方法、特にテーマ設定や解決方法、考察、結論の導出などについて解説するとともに、未開拓の領域を見出し、その手法を実践しながら学術論文の作成方法を修得させる。	
	カリキュラム開発講究（理科教育学）	（目標・概要） 理科教育の分野において、国内外の学会誌の典型的な学術論文をもとに、論文の引用や参考の仕方、論文の構成方法、特にテーマ設定や解決方法、考察、結論の導出などについて解説するとともに、未開拓の領域を見出し、その手法を実践しながら学術論文の作成方法を修得させる。	

分野区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通分野	カリキュラム開発講究（体育科教育学）	<p>（目標・概要）</p> <p>体育科教育の分野において、国内外の学会誌の典型的な学術論文をもとに、論文の引用や参考の仕方、論文の構成方法、特にテーマ設定や解決方法、考察、結論の導出などについて解説するとともに、未開拓の領域を見出し、その手法を実践しながら学術論文の作成方法を修得させる。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（7 今関豊一/8回）学術論文を書くことの意味、「引用」や「参考」の方法、「問題の所在」、「解決方法」の書き方、論理構成の方法、「結果」の解釈、「結論の導出方法」等過程に関して解説する。</p> <p>（9 近藤智靖/7回）特に学会誌の中で典型的な論文例をもとに未開拓の領域を見いだす方法や共通する論文構成法について解説する。</p>	オムニバス	
専修分野	国語	カリキュラム開発特別研究Ⅰ（国語教育学）	<p>（目標・概要）</p> <p>国語教育の分野でカリキュラムと学習指導との関係において代表的な学術論文を整理、分析することから未開拓の領域を見いだす方法を獲得させ、初等国語教育実践や国語教育史に係わる課題について研究指導を行なう。</p>	
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ（国語教育学）	<p>（目標・概要）</p> <p>カリキュラム開発講究の知見をもとに学会誌などに投稿する学術論文の書き方、テーマ設定や論の構成方法について解説し、初等国語教育実践や国語教育史に係わる課題について研究指導を行なう。</p>	
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ（国語教育学）	<p>（目標・概要）</p> <p>モデルとなる典型的な博士論文と学生が提出する博士論文の素案を対比しながら、問題の所在や解決方法、結果や結論の導出、論文の章構成など解説し、博士論文を作成できるようにする。初等国語教育実践や国語教育史に係わる課題について研究指導を行なう。</p>	
	社会	カリキュラム開発特別研究Ⅰ（社会科教育学）	<p>（目標・概要）</p> <p>社会科教育の分野でカリキュラムと学習指導との関係において代表的な学術論文を整理、分析することから未開拓の領域を見いだす方法などについて解説し、社会科教育、特に、地歴分野にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ（社会科教育学）	<p>（目標・概要）</p> <p>カリキュラム開発講究の知見をもとに学会誌などに投稿する学術論文の書き方、テーマ設定や論の構成方法について解説し、社会科教育、特に、地歴分野にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	

分野区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修分野	社会	カリキュラム開発特別研究Ⅲ（社会科教育学）  （目標・概要） モデルとなる典型的な博士論文と学生が提出する博士論文の素案を対比しながら、問題の所在や解決方法、結果や結論の導出、論文の章構成など解説し、博士論文を作成できるようにする。社会科教育、特に、地歴分野にかかわる課題について研究指導を行なう。	
	数学	カリキュラム開発特別研究Ⅰ（数学教育学）  （目標・概要） 数学教育の分野でカリキュラムと学習指導との関係において代表的な学術論文を整理、分析することから未開拓の領域を見いだす方法などについて解説し、算数教育、カリキュラム・教材開発に係わる課題、特に、コミュニケーション分野について研究指導を行なう。	
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ（数学教育学）  （目標・概要） カリキュラム開発講究の知見をもとに学会誌などに投稿する学術論文の書き方、テーマ設定や論の構成方法について解説し、算数教育、カリキュラム・教材開発に係わる課題、特に、コミュニケーション分野について研究指導を行なう。	
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ（数学教育学）  （目標・概要） モデルとなる典型的な博士論文と学生が提出する博士論文の素案を対比しながら、問題の所在や解決方法、結果や結論の導出、論文の章構成など解説し、博士論文を作成できるようにする。算数教育、カリキュラム・教材開発に係わる課題、特に、コミュニケーション分野について研究指導を行なう。	
	理科	カリキュラム開発特別研究Ⅰ（理科教育学）  （目標・概要） 理科教育の分野でカリキュラムと学習指導との関係において代表的な学術論文を整理、分析することから未開拓の領域を見いだす方法などについて解説し、理科教育にかかわる課題について、特に方法学の見地から研究指導を行なう。	
		カリキュラム開発特別研究Ⅱ（理科教育学）  （目標・概要） カリキュラム開発講究の知見をもとに学会誌などに投稿する学術論文の書き方、テーマ設定や論の構成方法について解説し、理科教育にかかわる課題について、特に方法学の見地から研究指導を行なう。	
		カリキュラム開発特別研究Ⅲ（理科教育学）  （目標・概要） モデルとなる典型的な博士論文と学生が提出する博士論文の素案を対比しながら、問題の所在や解決方法、結果や結論の導出、論文の章構成など解説し、博士論文を作成できるようにする。理科教育にかかわる課題について、特に方法学の見地から研究指導を行なう。	

分野 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修分野 体育	カリキュラム開発特別研究Ⅰ（体育科教育学）	<p>（目標・概要）            体育科教育の分野でカリキュラムと学習指導との関係における代表的な学術論文を年代毎に整理、分析することから未開拓の領域を見いだすことができるようにする。            （指導領域）            （7 今関豊一）上記方法等を用いて体育科教育、保健科教育に係わる課題、特に、保健領域について研究指導を行なう。            （9 近藤智靖）上記方法等を用いて、体育科教育、教師教育にかかわる課題について研究指導を行なう。</p>	
	カリキュラム開発特別研究Ⅱ（体育科教育学）	<p>（目標・概要）            カリキュラム開発講究の知見をもとに学会誌などに投稿する学術論文の書き方、テーマ設定や論の構成方法について解説する。また、学生が提出する学会論文の素案を討論しながら問題の所在や解決方法、結果や結論の導出方法を獲得させる。            （研究領域）            （7 今関豊一）上記方法等を用いて、体育科教育、保健科教育に係わる課題、特に、保健領域について研究指導を行なう。            （9 近藤智靖）上記方法等を用いて、体育科教育、教師教育に係わる課題について研究指導を行なう。</p>	
	カリキュラム開発特別研究Ⅲ（体育科教育学）	<p>（目標・概要）            モデルとなる典型的な博士論文と学生が提出する博士論文の素案を対比しながら、問題の所在や解決方法、結果や結論の導出、論文の章構成など解説し、博士論文を作成できるようにする。            （研究領域）            （7 今関豊一）上記方法等を用いて、体育科教育、保健科教育に係わる課題、特に、保健領域について研究指導を行なう。            （9 近藤智靖）上記方法等を用いて、体育科教育、教師教育に係わる課題について研究指導を行なう。</p>	